

新型コロナウイルスによる休校措置に関する シングルマザーの実際の状況

一般社団法人日本シングルマザー支援協会（代表 江成道子・以下、当協会）は、【お金を稼ぐ力】
【共感しあえるコミュニティ】【再婚という幸せ】の3つの柱を実現し、女性が子どもを育てながらも
働きやすい社会を目指して活動しています。

その活動の一環として、シングルマザーに関する研究をしていくために、2020年3月に日本シングル
マザー支援協会研究所（代表 江成道子・以下、当研究所）を設立しました。

今回、当研究所は「新型コロナウイルスによる休校措置に関するアンケート調査」（以下、本調査）
を行いました。

小中高校生の子どもがいるシングルマザーが実際に置かれている状況を報告いたします。

【 内容 】

- I. お子さんの年齢
- II. 休校措置の際の対応
- III. 休校措置に関しての、現在の心配事
- IV. 調査対象のシングルマザーを取り巻く経済環境
- V. 本調査に対する当研究所の見解

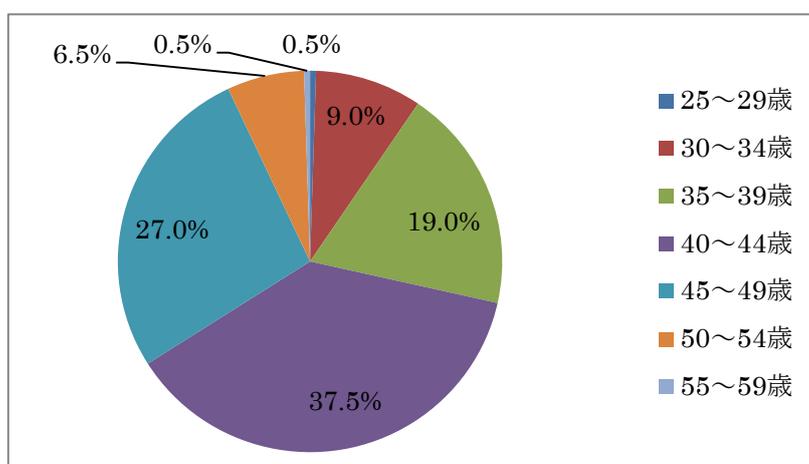
参照：別資料1（新型コロナウイルスによる休校措置に対するシングルマザー達の本音：130名回答）

問い合わせ	一般社団法人 日本シングルマザー支援協会
	江成・山木・鈴木・三輪
	HP： http://singlemother-support.co.jp E-mail： info@singlemother-support.co.jp

【 調 査 の 概 要 】

- (1) 調査名： 「休校措置に関するアンケート調査」
- (2) 調査対象： 当協会に会員登録をしている小中高校生がいるシングルマザー
- (3) 調査方法： WEB アンケート調査 (株式会社マイクロマル・クエスタント使用)
- (4) 調査時期： 2020年3月6日～19日
- (5) 回収数： 200人
- (6) サンプルの属性

離婚	156
別居中	25
未婚	13
死別	6
計	200



(7) サンプル数について

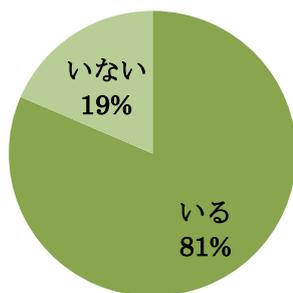
この調査では、上記の属性サンプルを集計・分析することを目的としています。そのため、当資料では人口比などによる補正は行っていません。

I. お子さんの年齢

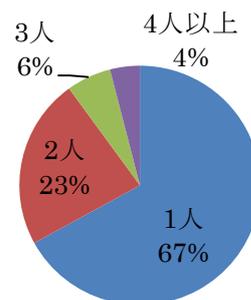
1. 今回の調査対象の年齢層は、35歳から45歳までが多く、その中でも、小学生のお子さんがある会員が多く見受けられた。
2. お子さんの人数が1人の割合が67%と最も多く、今回の休校措置において、最も影響を受けたのは小学生のお子さんがある方であった。

上記結果と別資料1から、小学生のお子さんのいる方は、ひとりで留守番をさせる不安か、仕事を休むことになり収入が減ること、あるいは、職を失う不安と向き合うことになった方が多かったことが推測できた。

小学生のお子さん

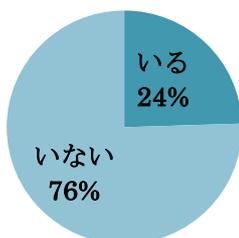


小学生のお子さんの人数は？

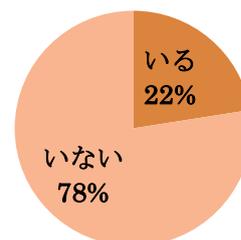


お子さんの人数

中学生のお子さん



高校生のお子さん

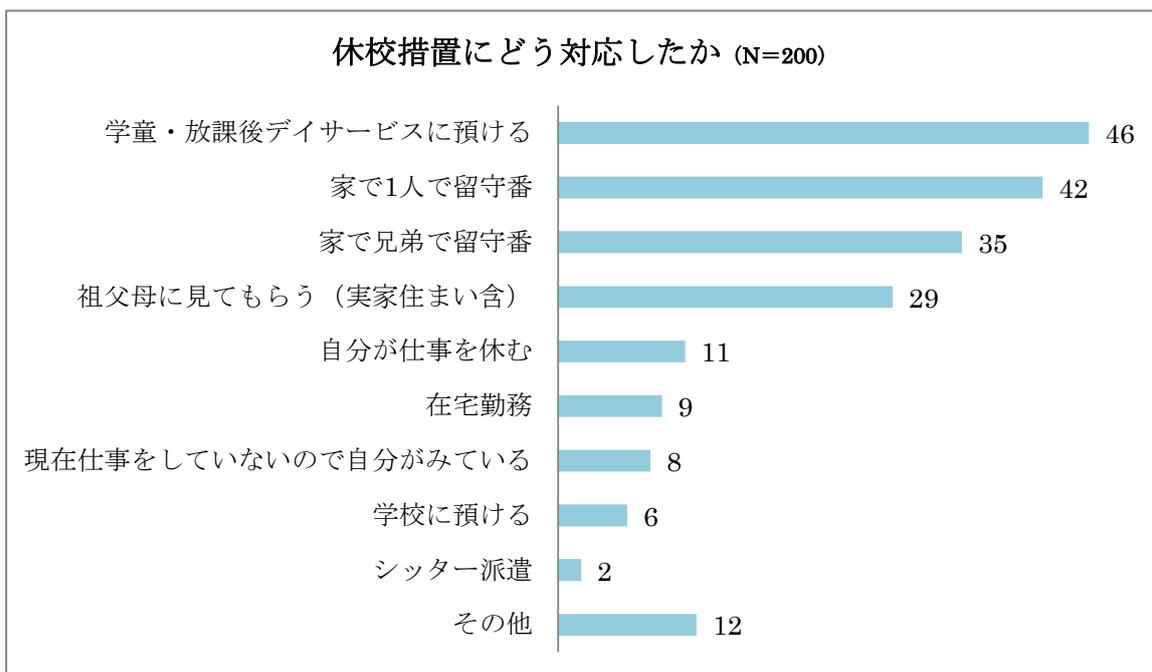


II. 休校措置の際の対応

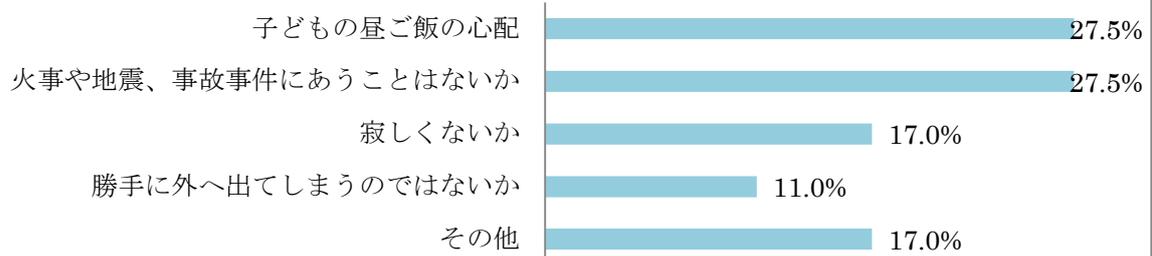
1. 休校措置への対応として、学童・放課後等デイサービスに預けた方が半数近くになった。
2. 勤務している会社により、仕事を休む労働者への対応の違いがあることがわかった。

結果と別資料1より、仕事が簡単に休めない立場の方も多く、学校よりも狭い学童に子どもたちを押し込むことになり、結果的に休校にした意味があったのか？という声も多くあった。

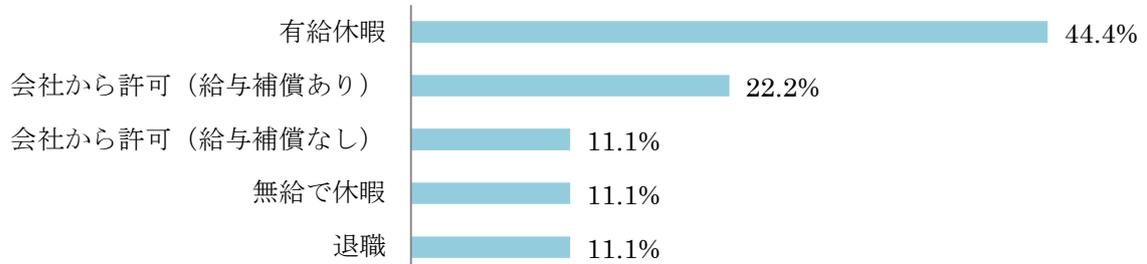
今回の件で否応なく、はじめてひとりで留守番をすることになった子どもが見受けられ、いつも以上のストレスを抱えながら、親も仕事に従事したようであった。また、勤務している会社の規模、業種によって、労働者への対応の違いからも、より詳細で柔軟な対応が必要であると考えられた。



家で留守番させるときの心配事



「自分が仕事を休む」場合、どのような休暇扱いですか？



Ⅲ. 休校措置に関しての、現在の心配

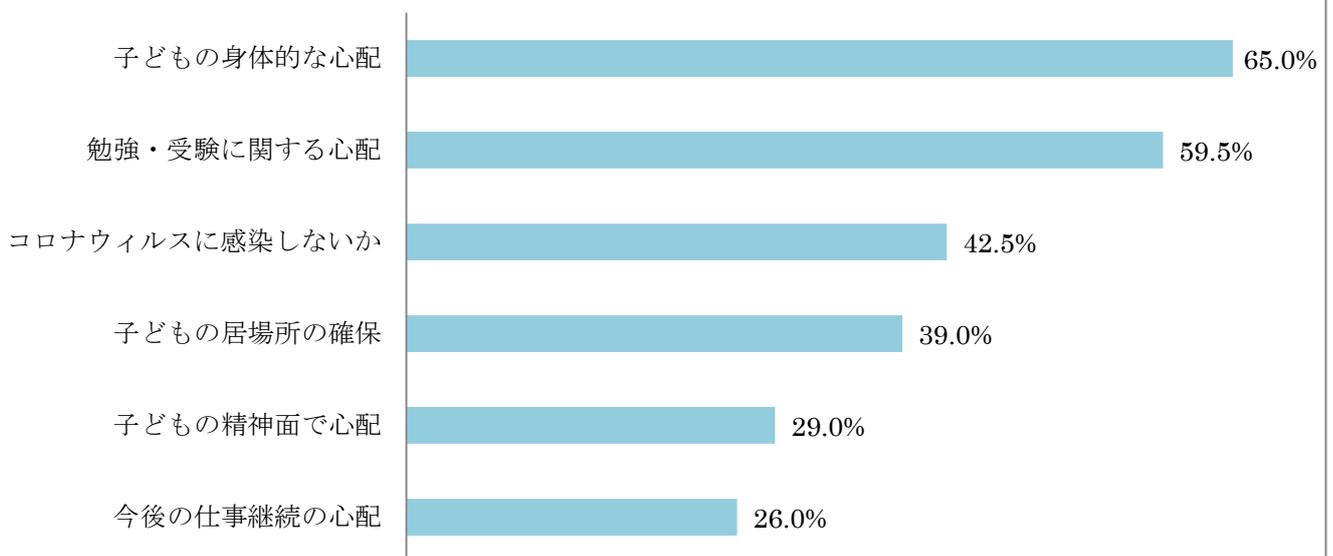
1. 最も心配していることは、「子どもの身体的な心配」であった。
2. 26%ではあるが、休校措置により仕事を休むことになったなどで、今後の仕事が無くなるという心配をする方がいた。
3. 今回の原因である新型コロナウイルスへの感染の心配は、3番目となった。

上記結果と、別資料 1 から、家に閉じ込められることが、子どもにどのような影響を与えるのか、ある意味見えない部分であり、一番の心配事になっていた。

また、求職中の数名ではあったが、今回の騒動により、就職が絶望的になったという声も聞かれた。

シングルマザーの中には、収入が常にギリギリのラインにいる方も多い。このことは、大きな不安要素に繋がっていくため、ギリギリのラインという綱渡りではない状況にしておく事の重要性が改めてわかった。

現在の心配事は何ですか？（複数回答）



IV. 調査対象のシングルマザーを取り巻く経済環境

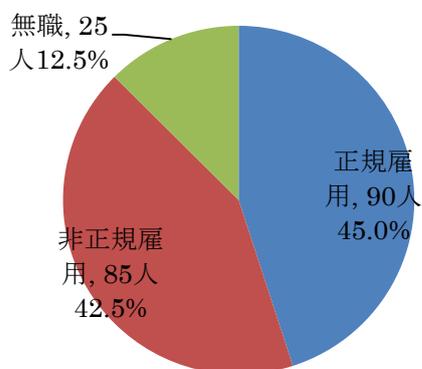
1. 正規雇用の方と非正規雇用の方の割合は、大きな差がなかった。
2. 求職中を含め、無職の方は25%であった。
3. 児童扶養手当受給は、全体の約70%の方が受給していた。
4. 養育費を受け取っている人は、全体の約50%であった。
5. 婚姻費用のみに関しては、約半数は受け取っていることがわかった。

I～IVの結果と別資料1より、正規雇用の場合、仕事に関する今後の不安より、仕事が休めないことによる、子どもの預け先確保の不安が多かった。
また、非正規雇用の場合、休むことは容易にできる方も多いが、今後の仕事と収入の不安要素が増えたことがわかった。

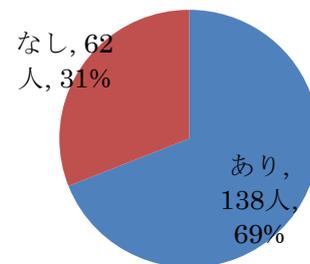
収入に応じて受給される、児童扶養手当受給に関しては、別居中の方も25名いるので、約80%の方が受給していると推察できた。

子どもの養育費を受け取っている人は、全体の約50%で、別居中に受け取れる婚姻費用も、約半数は受け取っており、シングルマザーの経済環境に影響を与えている要因の一つであると考えられた。

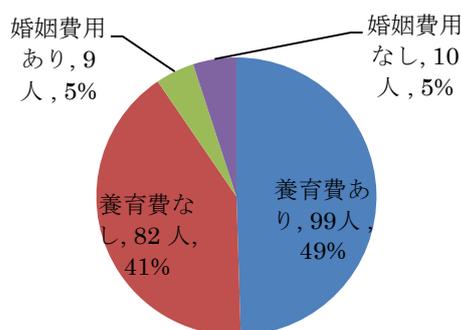
現在の雇用状態 (N=200)



児童扶養手当受給について (N=200)



子どもの養育費について (N=200)



V. 本調査に対する当研究所の見解

本調査の結果と別資料1から、全体的には、子どもが家庭にいることでの心配事や、食費の増加や家庭学習用のドリルの購入などの出費が嵩むことへの不安、不満が多かった。

また、不安材料は現在置かれている状況により変化があり、特に、正規雇用より非正規雇用の方が収入への不安、解雇への不安が多かった。さらに、子どもの年齢が低いほど、子どもの行動や勉強、預け先などへの不安が多い結果となった。

また、「ひとり親」という社会的弱者が多いカテゴリーの個々の声を伝えることで、より多くの人理解できる内容となった。

その中の意見として、「感染のない地域にも休校措置は必要だったのか?」「子どもの行動を抑制するよりも高齢者の行動を抑制した方が良かったのではないか」「学校を休校にして、更に狭い学童に集まることに意味があるのか」などが多く見受けられた。

今回の休校措置は、致し方ないことではあった。しかし、突然の通知だったことで、保護者自身が動揺したケースもあり、親子共々精神的不安定になりやすい傾向があった。

さらに拍車をかけることになったのが、「先が見えない不安」であった。不安要素の大きなものの一つとして、コロナウイルスに関しては、わからないことが多く、インフルエンザなどとの比較のような周知があれば、不安を増幅させないことが可能だったかもしれないと考えられた。

以上より、当研究所は、昨今増えている非常事態に備えるべく、当協会の推進している「正規雇用を促進する活動の重要性」が再確認でき、今後も継続の必要性があるとわかった。